

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 政府は裁判に勝っても工事を進められない

辺野古新基地建設で県が行った埋め立て承認の撤回を取り消した国土交通相の採決は違法だとして県が国を相手に採決を求めた訴訟で、最高裁が県の上告を棄却した判決を受け、「オール沖縄会議」は9日、那覇市の県民広場で抗議集会を行いました。稲嶺進共同代表・元名護市長は「司法が自らの役割と民主主義を守る役割を放棄した」と批判、仲西孝浩弁護士は「憲法と地方自治の本旨について検討もされず不当判決だ」と解説。県議会与党会派が挨拶、共産党の比嘉端己県議は「政府は裁判に勝ったからといって大浦湾側の工事を進めることはできない」と強調しました。集会では県民のたたかいで世論を大きく広げ、司法を包囲しようと呼びかけました。



最高裁の不当判決に抗議し、「新基地建設を断念せよ!」と高里鈴代共同代表(左端)の音頭で「がんばろー三唱」する集会参加者(9日、県民広場)

たたかいと世論で司法を包囲しよう!  
辺野古新基地訴訟 最高裁の不当判決受け抗議集会

### 沖縄でも深刻な被害者多数 県平和委が統一協会問題で学習

沖縄県平和委員会は7日、三宅俊司弁護士を講師にオンラインで統一協会問題の学習会を行い13人が視聴しました。三宅氏は沖縄での霊感商法被害事件の生々しい実態を報告し、フランスでは精神的不安定下に置き法外な金銭を要求するなどの宗教を、創価学会を含め「カルト」と認定していることを上げ、統一協会の被害者救済法の政府案の問題点を指摘しました。県平和委員会の大久保康裕事務局長は、県内のカルト教団の施設が那覇新都心に数多く集中している実態を報告。全国で最も所得水準が低い沖縄県民の中でカルト教団によって、多くの被害者を生み出していると話しました。

(写真は、報告する三宅弁護士)



### 12・8「赤紙」配り反戦訴え



写真は、首里高校前で高校生に「赤紙」を手渡ししながら軍拡の危険性を訴え対話する母連の人々

沖縄県母親大会連絡会は8日、那覇市首里高校前で「赤紙」(臨時召集令状)を高校生ら配り、反戦を訴えました。新婦人県本部の久手堅幸子会長など5人が参加、150枚の「赤紙」を手渡し高校生と対話しました。「自衛隊員になりたい」という男子高生とウクライナ情勢や沖縄のミサイル基地化などで立ち話になり、この学生は「もう一度、考えてみます」と応えました。

### 美謝川切替へ大規模な森林伐採

辺野古弾薬庫周辺の第4ゲート付近の美謝川整備工事のための大規模な森林伐採が続いています。現地で監視活動をする中村吉旦さんは「広範囲の皆伐・整地により降雨のたびに大浦湾への大量の赤土が流出し、大浦湾の環境が破壊されている」と話しています。12日朝、工事車両ゲート前に座り込んだ人の内20数人が第4ゲートへ移動。現場を視察(写真)し、午前11時に基地内に入る工事車両に抗議の声を上げました



### 辺野古初体験「安保闘争を思い出した」

7日午後3時、キャンプ・シュワブのゲート前では約30人が座り込み、作業車が数十台並ぶ前でたたかひの歌を歌い、「違法工事は中止せよ!」と抗議の声を上げ続けました。この中に東京・東村山市の「辺野古新基地建設反対を支援する会」を代表し初めて辺野古に駆け付けた濱野秀樹さん(72)夫妻もいました。濱野さんは「現場で不屈にたたかう県民の迫力に感動し、学生時代の70年安保闘争を思い出しました。今回、沖縄訪問に当たって仲間に支援カンパを訴えたと25人から約8万円寄せられました。本土での辺野古への関心は高いです」と話しました。



上の写真は、ゲート前の全景(7日)。左写真は、座り込む濱野さん夫妻